

2. 児童思春期のメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

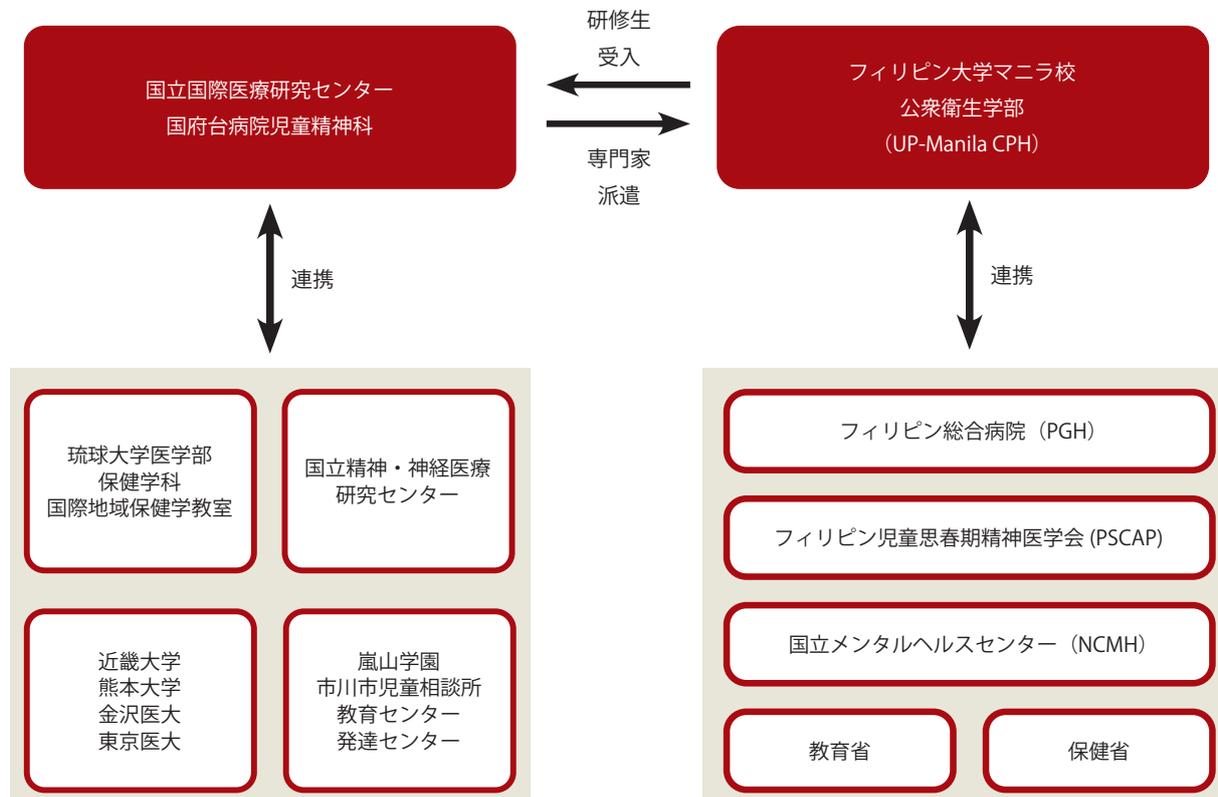
フィリピン共和国は、37%が14歳未満という極めて若い国であると同時に、2019年に精神保健法が制定され、精神障害も国民健康保険の対象となり、子どもたちのメンタルヘルスは重要な課題となっている。また、フィリピンの子どもの16%が何らかの精神疾患を抱えている一方で、児童思春期の入院施設は全体の2%しかない現状である（WHO AIMS 2007）。

【事業の目的】

フィリピン児童精神医学会、フィリピン精神医学会、フィリピン精神保健協会、フィリピン総合病院、国立精神保健センターと連携し、自閉症など児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する研修会の開催を行い、その診療能力の向上を目指す。特に精神疾患の予後規定因子である発症から受診までの期間を短くすることを地域の診療能力向上とともに目指している。

【研修目標】

フィリピンにて実際に子どものメンタルヘルスに関わっている専門職（医師、心理士、看護師、保健師、ソーシャルワーカーなど）を対象とした本研修の目的は児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する知識の習得である。さらに研修終了者を通じてフィリピン児童青年精神医学会と連携した研修会の開催である。



事業の背景として、フィリピン共和国は、37%が14歳未満という極めて若い国であることがあります。さらに2019年に精神保健法が制定され、精神障害も国民健康保険の対象となり、子どもたちのメンタルヘルスは重要な課題となっております。また、フィリピンの子どもの16%が何らかの精神疾患を抱えている一方で、児童思春期の入院施設は全体の2%しかない現状です（WHO AIMS 2007）。事業の目的は、フィリピン児童精神医学会、フィリピン精神医学会、フィリピン精神保健協会、フィリピン総合病院、国立精神保健センターと連携し、自閉症など児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する研修会の開催を行い、その診療能力の向上を目指します。特に精神疾患の予後規定因子である発症から受診までの期間を短くすることを、地域の診療能力向上とともに目指しています。

実施体制ですが、日本側としては国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科を中心として、国立精神・神経医療研究センターと、琉球大学、近畿大学、熊本大学、金沢医大、東京医大の各大学、そして市川児童相談所、市川子育て支援課、発達センター、教育センターなどの児童福祉領域の専門機関と連携しました。対して、フィリピン側はフィリピン大学マニラ校公衆衛生学部が中心となり、フィリピン総合病院、フィリピン児童青年精神医学会、国立メンタルヘルスセンターと連携しました。このような実施体制の下で、フィリピンにて実際に子どものメンタルヘルスに関わっている専門職（医師、心理士、看護師、保健師、ソーシャルワーカーなど）を対象とした本研修の目的は児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する知識の習得である。さらに研修終了者を通じてフィリピン児童青年精神医学会と連携した研修会を開催しました。

1年間の事業内容				
2019年	6月(マニラ) ▶	9月(マニラ) ▶	11月(NCGM) ▶	2月(マニラ) ▶
JPN派遣 (人数、期間) 	3名/1日	7名/3日	10名/3日	2名/2日 (マニラ)
Php受入 (人数、期間) 	参加者 3名	参加者のべ80名	研修生 受入5名/3日	参加者 7名
研修内容  	<ul style="list-style-type: none"> 両国の児童精神科医療の現状について説明し、9月、11月の研修会の打ち合わせ 大塚フィリピンとのプロモーションの打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 9講義（診断学・薬物療法、虐待、災害精神医学など） Site Visits(National Center for Mental Health など) 	<ul style="list-style-type: none"> 5講義（児童福祉、大学での診療体制、研修体制、コメディカルの業務など） Site Visits(児相など) 	<ul style="list-style-type: none"> Child Mental Health Forum (COVID-19にて中止) これまでの研修会をまとめて、提言として論文化(Submission)

今回は大きく分けて6月、9月、11月、2月の4つの活動があります。6月はマニラで両国の児童精神科医療の現状について説明し、9月、11月の研修会の打ち合わせと大塚フィリピンとのプロモーションの打ち合わせを行いました。9月は現地の専門職を対象として、9講義（診断学・薬物療法、虐待、災害精神医学など）と Site Visits(National Center for Mental Health など)を行いました。11月は研修生を5名受け入れ、5講義（児童福祉、大学での診療体制、研修体制、コメディカルの業務など）と Site Visits(児相など)を行いました。2月には今回の研修を受けたスタッフを講師にして Child Mental Health Forum をマニラで開催する予定でしたが、COVID-19にて中止となり、これまでの研修会をまとめて、提言として論文化しました。

Study 1 @Manila



マカティ市



フィリピンサイドとの
2020年度計画立案



大塚フィリピン

アリビプラゾールの製造・販売
急増する自閉症への対策問題
自閉症の易刺激性への適応

6月の写真です。フィリピン大学マニラ校での打ち合わせの後、マカティ市に移動して大塚フィリピン本社にてミーティングを行いました。

た。その時の写真です。大塚製薬はアリピプラゾールの製造・販売を行っており、急増する自閉症への対策問題として自閉症の易刺激性への適応を取得しています。今後の需要が期待されます。



9月にマニラで行った研修会開催時の集合写真です。開始時には副学長も挨拶に来てくださりました。



左上の写真が受付になります。その下が日本側の講義写真。右上が大塚フィリピンによるランチョンセミナーの写真になります。どの講義も議論が盛んで、時間が足りないぐらいでした。

Study 2@Manila

講義テーマ	講師
Current situation of CAPS (Php)	Prof. Cynthia Leynes (UP-Manila PGH)
Current situation of CAPS (Jp)	Dr. Masahide Usami (NCGM)
Pharmacotherapy for children in Japan	Dr. Noa Tsujii (Kindai Univ.)
Diagnosis of child (Jp)	Dr. Masahide Usami (NCGM)
Diagnosis of child (Php)	Dr. Rhodora Andrea M. Concepcion (Lung Center of the Philippines)
Disaster child psychiatry (Jp)	Dr. Jiro Masuya (Tokyo Med. Univ.)
Disaster child psychiatry (Php)	Dr. Japhet Gensaya Fernandez de Leon (West Visayas State U Hospital and President of The Philippine Society for Child and Adolescent Psychiatry)
Child abuse (Jp)	Dr. Naoko Satake (NCNP)
Child abuse (Php)	Dr. Norieta C. Balderrama (St. Luke's Medical Center)

9月の講義内容になります。日本とフィリピンサイドの両サイドからの講義とともにディスカッションする形式で進めていきました。フィリピンサイドの Pharmacotherapy for children はランチョンセミナーに含まれていますので、このスケジュールには含まれていません。

Study 3@NCGM



Site Visits



発達センター
教育センター
児童相談所など



講義中

講義テーマ

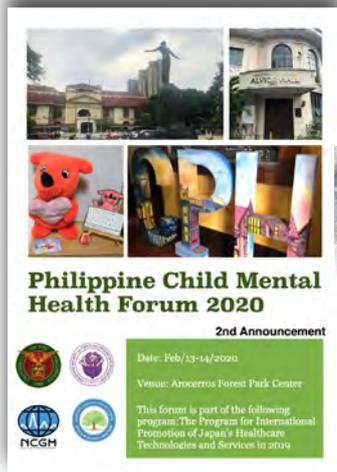
講師

Institution for Children's Mental Care, and Aftercare for Children (Jp)	Dr. Hiroshi HAYAKAWA
Disaster psychiatry (Jp)	Dr. Hirokazu KAWAHARA
Training for CAPs (Jp)	Dr. Yuki HAKOSHIMA
Child psychiatry in Univ (Jp)	Dr. Hiroaki KIHARA
Psychologists, Social worker for child mental health (Jp)	Mr. Ikuhiro Harada and Mr. Syuzo NINOMIYA

こちらは日本で11月に行われた講義の写真になります。左上から教育センターの体育館、その下が発達センターの紹介、一番下が国府台病院での講義となります。右上が修了証の授与式とその下が集合写真になります。講義内容は主に日本サイドからのみで、日本での教育制度や福祉制度などが主な内容です。

Study 4@Manila

研修生による
講義



COVID-19
中止へ



2020年2月に受講した研修生たちを講師として、Child Mental Health Forum2020を開催する予定でした。しかしながら、COVID-19の影響からフィリピン大学側から開催中止の要請がありました。代わりに国内研修生たちと共にこれまでの研修を通じて明らかとなった両国の子どものメンタルヘルスの問題とその違いについて話し合い、その提言をまとめました。

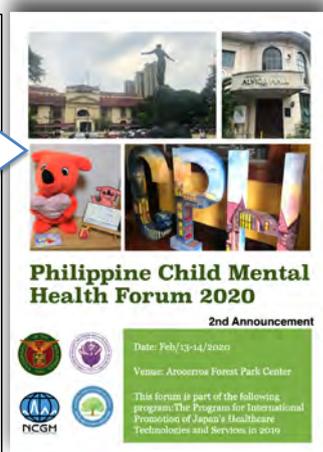
この1年間の成果指標とその結果

	アウトプット指標 	アウトカム指標 	インパクト指標 
実施前の計画 	①本邦研修参加者・医師5名（PSCAP 会員）およびUP-ManilaのCPH教員。 ②現地研修での対象者 ・医師10名（PSCAP会員）および心理士、ソーシャルワーカー、看護	①フィリピン児童精神医学会と連携して児童精神医学に研修に関するテキストの作成および講習会の開催 ②多職種の医療スタッフのネットワークだけでなく、医療、保健、教育など子供のケアについての多機関ネットワークが構築されること	2017年の当事業によって開催されるに至ったフィリピン共和国保健省主催のメンタルヘルスフォーラムが継続されていくこと、関連学会で今回の事業結果を発表し、作成されたレポートもしくは論文が引用されること。
実施後の結果 	①本邦研修参加者11月予定 ・医師5名（PSCAP 会長・会員）、フィリピン大学マニラ校の公衆衛生学部教員。 ②現地研修での対象者 ・医師（PGH、PSCAP会長および学会員）、心理士、ソーシャルワーカー、看護師、保健師、などの57名。フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部長も参加。 ③研修内容に関する結果として、日本の教育制度などに高い満足度が得られた。	①Child Mental Health Forum の開催（COVID-19にて中止） ②提言論文のSubmission（UP-Manila CPHスタッフが First Author） ③本事業のSite VisitやForumを通じて、多職種の医療、保健、教育など子どものケアについての多機関ネットワークが構築されつつあること	①2017年の当事業によって開催されるに至ったメンタルヘルスフォーラムの継続 ②事業結果で作成された論文の引用。 ③フィリピン児童青年精神医学会との連携の構築と世界児童青年精神医学会及びアジア児童青年精神医学会での発表予定

この1年間の成果指標と結果です。概ね実施前の計画に沿ってアウトプットとアウトカムを得ることができています。特に大きなアウトカムとしては、Child Mental Health Forum の開催であったが、その開催が中止となったことが残念です。また、この事業を通じて両国の子どものメンタルヘルスに関する提言論文をフィリピン大学スタッフが First Author としてまとめたことであり、投稿予定となっています。

今年度の成果

- 受講者数（現地参加延べ人数）
 - Study1：3名, Study2：80名, Study3：5名, Study4：5名
- Child Mental Health Forumの開催  COVID-19にて中止
 （医療・福祉・教育関係：50名参加予定）
 - Children's Mental Health in Disaster-affected Area
 - ADHD & other behavioral problems among elementary school children
 - Depression and suicide prevention in high schools
 - Focusing on the least, the last, and the lost: suicidal ideation, behaviors, and attitudes towards suicide of adolescent ALS learners
 - Workshop: Comprehensive Mental Health Literacy Program for junior high school students
- 事業を通して提言として論文化し投稿 (Submission中)



今後の課題

- フィリピン国内で60名ほどしかいない児童精神科医の養成
- コメディカル（心理・看護・ワーカー）及び教師へのメンタルヘルスリテラシーの普及
- アリピプラゾールを含めた薬物療法の普及（経済的問題）

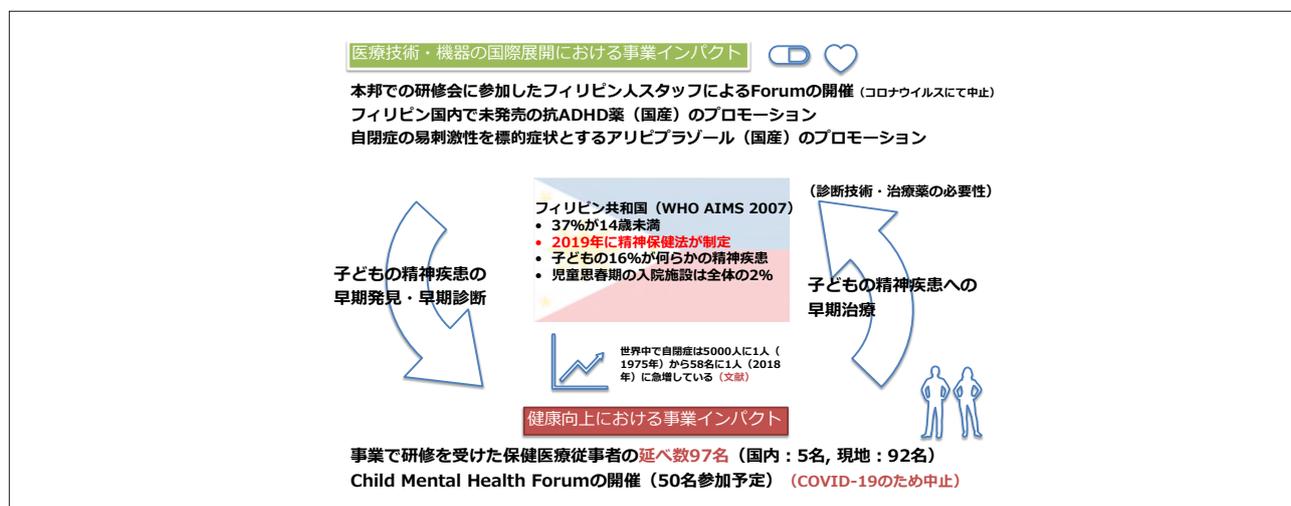
今年度の成果を示します。COVID-19の影響でChild Mental Health Forum の開催ができなかったことが非常に残念ですが、事業を通じて日本との比較を中心にフィリピン国内の子どものメンタルヘルスに関する提言を論文化することを達成することができました。

今後の課題としては、児童精神科医の養成、コメディカル（心理・看護・ワーカー）及び教師へのメンタルヘルスリテラシーの普及、そしてアリピプラゾールを含めた薬物療法の普及（経済的問題）を想定しています。

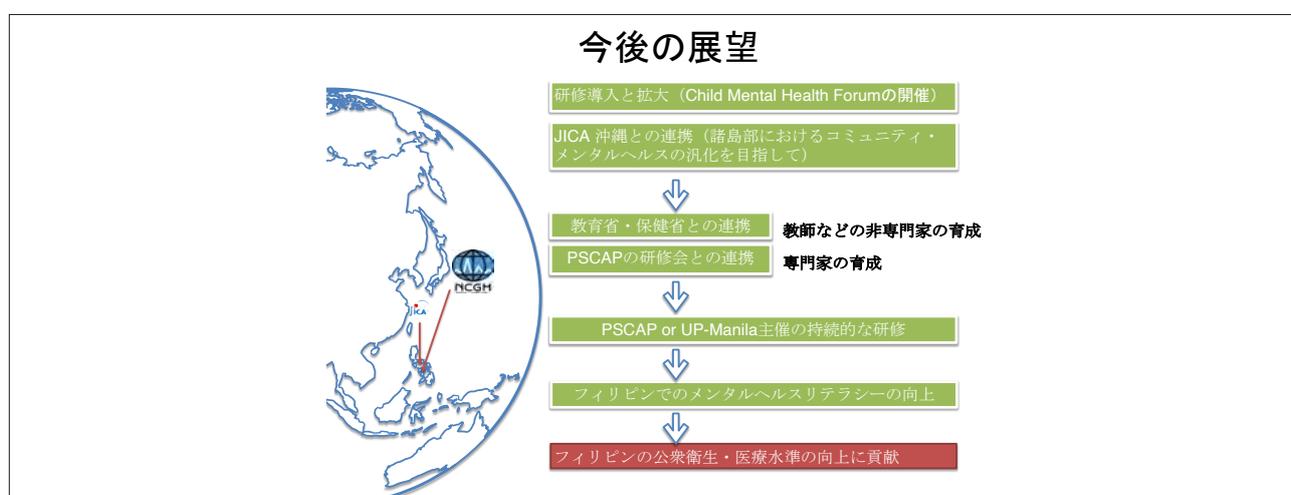
Clinical Implication and Recommendation

Topic	
Diagnosis	Train and collaborate with the society of pediatricians, psychologists, teachers, social workers, and religious sector in dealing with the mental health of children.
Abuse	Sharing best practices
Pharmacotherapy	Develop country or regional protocol and clinical guidelines for pharmacotherapy for children.
Psychosocial intervention	Develop system for availability and charging fees for psychotherapy
Disaster child psychiatry	Importance of utilizing and coordinating local resources in preparation for and responding to disasters. Create more opportunities for exchanging best practices among countries.

我々が共にまとめた Clinical Implication and Recommendation になります。いずれの国においても重要な課題であり、特にいずれの分野においても良い取り組みについては積極的に情報交換していくことが望ましいと考えます。



事業インパクトとしては、Forum の開催が最も大きなインパクトであり、健康向上における事業インパクトとして子どもの精神疾患の早期発見・早期診断につながる事業で研修を受けた保健医療従事者の延べ数 97 名が得られました。これらは、子どもの精神疾患への早期治療へとつながり、わが国の向精神薬のプロモーションへとつながるものと考えられます。



今後の展望としては、中止となった Child Mental Health Forum の再開と研修の継続・拡大を考えており、わが国の沖縄の諸島部におけるコミュニティメンタルヘルスの汎化を目指していきたい。また、フィリピン国内の各省及び学会との連携を図り、フィリピン国内のメンタルヘルスリテラシーと医療水準の向上を目指していきたいです。